

国語 第1学年 はをつかおう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を私の学級に合わせて直してください。初めに、学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や配慮、使える時間と本時の位置、ICTと紙の道具の条件を一項目ずつ質問し、答えを待ってから次の質問へ進んでください。条件がそろったら、助詞のはの表記という目標を保ち、はを使った文で学びを確認できるように全体を直してください。教科書の本文や台詞、挿絵、固有の問題は転載しないでください。配当時数は出典に従い、活動の配分を提案する場合は提案と明示してください。児童の姿を実測済みの事実として創作しないでください。三重の指導案の見出しの順と評価の三観点を保ち、内部IDなどを先生向けの文章へ出さないでください。変更箇所と根拠を示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「はをつかおう」 教材名「はをつかおう」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、本時に扱う仮名や助詞の表記を確かめ、語や文の中で使う。思考・判断・表現では、誰が何をするかを表す文を読み、助詞のはを使って書き直す。交流や試行の前後を比べ、はを使った文を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①本時に扱う仮名や助詞の表記を確かめ、語や文の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)ウ）
〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、誰が何をするかを表す文を読み、助詞のはを使って書き直している。(B(1)ウ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

この単元では、助詞のはの表記を中心に学ぶ。誰が何をするかを表す文を読み、助詞のはを使って書き直す活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(1)ウとB(1)ウに関係する学習である。成果は、はを使った文に示した判断と理由から捉える。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

予想される難しさは、聞こえた音のままを書き書くことである。物の名前のわと文をつなぐはを、教師作成の短文で比べる。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

第1次 第1時（本時）：○誰が何をするかを表す文を読み、助詞のはを使って書き直す。○考えた理由を交流し、はを使った文を仕上げる。 評価：知①・思①（学習記録）／態①は関連する学習の記録も合わせて見る。

6 本時の指導（1／1）

(1) 本時の目標

誰が何をするかを表す文を読み、助詞のはを使って書き直すことができる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：1 身近な経験と既習の言葉を確認、今日使う教材や資料を準備する。

○「声ではわと聞こえるのにどの字を書くか」

【めあて】助詞のはの表記について、自分の考えと理由を表そう。

予想される児童の反応：・「わたし」の中は「わ」だけれど、その後は「は」と書く。

・どこを確かめれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。

指導上の留意点：本時に使う具体例が見える所へ置く。聞こえた音のままわを書く姿が見られても、すぐに訂正させず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。

【展開】

学習活動：2 誰が何をするかを表す文を読み、助詞のはを使って書き直す。

3 書いたものを読み返し、「声ではわと聞こえるのにどの字を書くか」を観点に、友達へ伝わりにくい箇所を確かめる。

4 必要な語句や構成を直し、直す前後と理由を残す。

○教師作成の「わたしはえをかく。」を読み、「わたし」の中の「わ」と、後の「は」を区別する。自分がすることを同じように文に書く。

予想される児童の反応：・「わたし」の中は「わ」だけれど、その後は「は」と書く。

・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。

指導上の留意点：物の名前のわと文をつなぐはを、教師作成の短文で比べる。知識・技能では、本時に扱う仮名や助詞の表記を確かめ、語や文の中で使っている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。

評価：①誰が何をするかを表す文を読み、助詞のはを使って書き直している。(B(1)ウ)(初稿・見直した稿・修正理由)

【まとめ】

学習活動：5 はを使った文を確かめ、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。

【まとめ】だれが何をするかを書く文では、「わたしは」のように、つなぐところの「は」を確かめて書く。

6 最初から変えた点、理由を確かめて残した点を振り返る。

予想される児童の反応：・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。

指導上の留意点：結論が教師の例と同じかだけで判定しない。声ではわと聞こえるのにどの字を書くかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。

評価：知①(はを使った文と実際の言葉の使用)・態①(単元を通した試行や見直し)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、誰が何をするかを表す文を読み、助詞のはを使って書き直している姿である。初稿・見直した稿・修正理由を基に判断する。聞こえた音のままわを書く場合は、物の名前のわと文をつなぐはを、教師作成の短文で比べる。読み書きの速さや発表の回数ではなく、本時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。

(4) 板書計画(縦書き・右から左へ)

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には助詞のはの表記を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側にははを使った文で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

